

新型コロナウイルス感染症（京都市内における先週（10/11～10/17）の状況）

◆先週の特徴など

○概況

飲酒を伴う会食を契機とするクラスターの発生により、先週（10/11～10/17）の新規感染者数は、先々週（10/4～10/10）より26人（81.3%）増の58人となりました。

10月3日に行われた会食（42人参加）を契機とするクラスターが発生し、そこで感染した方が働く飲食店で開かれた飲み会（12人参加）からもクラスターが発生、さらに、家庭や職場などで接触のあった方にも感染が広がりました。このため、先週の新規感染者のうち30人（51.7%）にクラスターとの関連が確認されています。

一方、感染経路不明の新規感染者数も14人（2.0人/日）となり、本市単独でも再び京都府域の警戒基準値に達しています。

○全国的な状況との比較

国の新型コロナウイルス感染症対策分科会では、現在の国内の感染状況について、「感染の「増加要因」と「減少要因」が拮抗しており、」「大幅な増加がみられない一方で、急激な減少もみられない状況」と評価しています。

また、「拮抗状況は、この2つの要因のバランス次第で、いつ崩れてもおかしくない」、 「特にクラスターの連鎖が発生した場合に、上昇するリスクを抱えている」との懸念が示されていますが、本市においては、まさにそれが現実のものとなったといえます。

○クラスター発生を防ぐために

今後、さらに飲酒を伴う会食等の機会が増え、感染の増加要因となることも予想されます。

このため、感染症対策の一層の徹底を図っていく必要があります。とりわけ、一度に多数の人が感染し、大きく感染を拡げてしまうクラスターの発生や連鎖を防ぐことが重要となります。

換気が悪い（密閉）、多数が集まる（密集）、至近距離・マスクなしでの会話・発声（密接）といった感染リスクの高い場面や行動から、クラスターは発生します。飲酒を伴う会食等に当たっては、**感染拡大予防ガイドラインを遵守しているお店を利用いただくほか、参加人数に応じた広さの会場を用意のうえ、飛沫を浴びにくい配席にする**などの工夫により、感染リスクを下げるようにしてください。

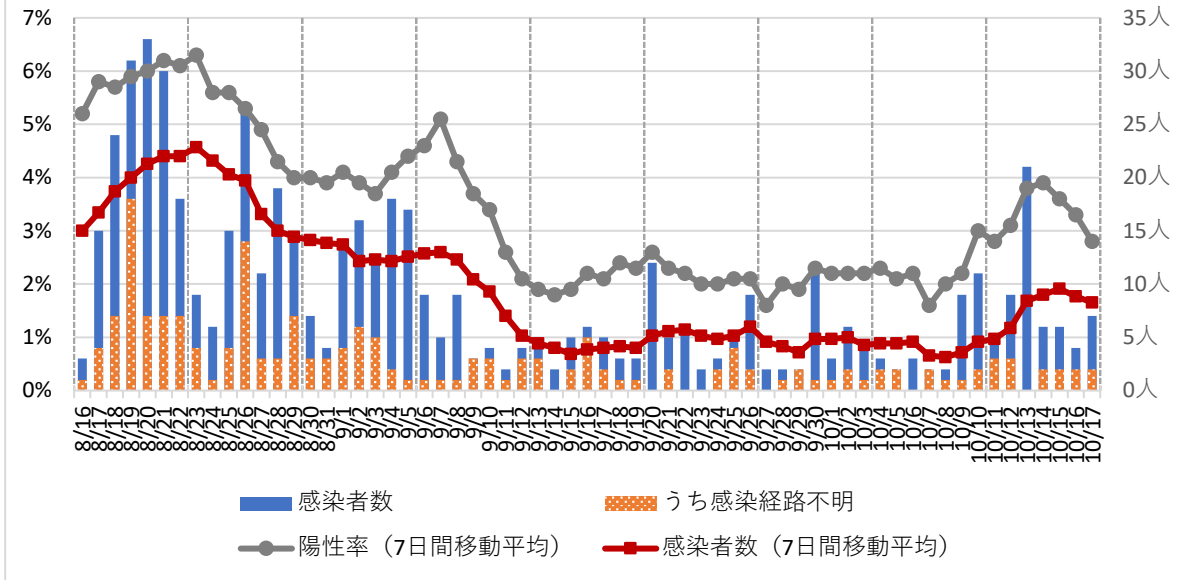
また、ウイルスの量が多い発症直後の人の参加がクラスターの引金となります。**発熱や咳、のどが痛い、体がだるいなど、風邪のような症状を少しでも感じたら、絶対に参加せず、自宅で療養**してください。

手洗いやマスクの着用のほか、クラスターの発生防止を意識した感染症対策にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

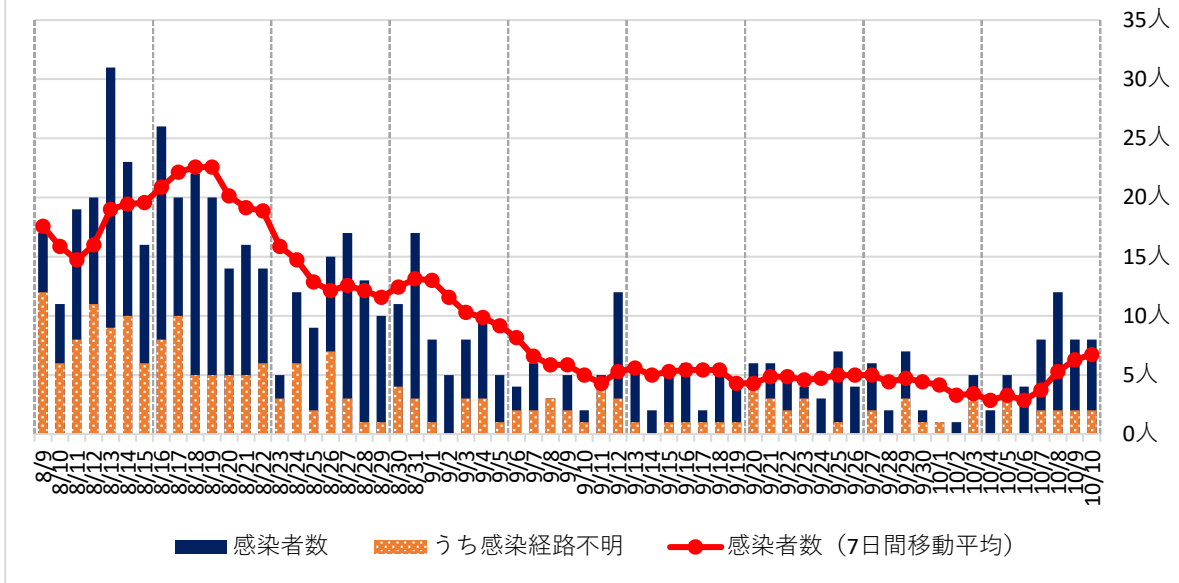
◆新規感染者数

先週の新規感染者数	58人 前週比+26人	1日当たり平均	8.29人 前週比+3.72人
感染経路判明	44人 (76%)	10万人当たり新規感染者数/週	3.97人
感染経路不明	14人 (24%)	PCR検査陽性率（7日間移動平均）	2.8%

新型コロナウイルス感染者数（京都市内，日別）



新型コロナウイルス感染者数（京都市内，発症日別）



◆病床の状況

	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日
重症者病床使用率	2.3% (2人/86床)	1.2% (1人/86床)	1.2% (1人/86床)	1.2% (1人/86床)	1.2% (1人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)

- ・療養中患者数（10月17日現在） 93人（前週比+23人）
先週の新規感染者（58人）のうち，検体採取時に「無症状」の方は24人です。

◆感染者の年代

